





2916
4

婦人
孝經

江戸

花誌
卷四

藏書
之記
みつ

昭和九年
七月六日
東京

あつめのまゝ
誰家^{たが}の^や西^{にし}山^のの^の日^ひを^を駐^{とど}め^めん
東^{とう}流^{りゅう}の^の水^{みづ}を^を握^{にぎ}ん^んる^る修^{しゆ}め^めん
か^かま^ま入^い相^{さう}の^の鏡^{かみ}も^もは^はま^まを^をて^てぬ^ぬる^る話^わは^はも
東^{とう}京^{きやう}雷^{らい}火^かハ^ハち^ちを^を誘^よひ^ひ日^ひ毎^{まい}小^{せう}京^{きやう}者^{しや}
ある^{ある}山^の花^{はな}を^を採^とり^り入^いる^る白^{しろ}紙^{かみ}が^がま^ま

あるは若き者をして貫くは又と信じて
意のふあつりたる又おとつりたるのまま
まひび日く京をしまであつるを人若く
おのひこれともあふ女夫は食さくも
はあつて程ふ業と考へて介抱も仮初め
程がその心ぎもあふあつておのひ車
ゆくとあつらぬ女と月乃あつて七日の間
通ひつるあふ又白銀屋銀千高といつる

四二

今年十八女をしてまご定まらる妻もあつ
のめきき白翁が傍小孫臥もまれば偶々
強和入りたるものもあつて血毒あつた
種くは淋病も困淋病も明く考へておとつ
頃浪居が方へまごあつたあつたあつた
娵女をの隙より垣間つる小孫被さく
尋たあつた法も可也ら上り娘よ
はくより病ひのあつた面もあつたあつた

花の姿をきく風情と結びおのゝ
増てあづるあく無そめーあり寂初はじまの
るをいひぬ一は所ある貸を金糸糸
忠を密さる不招きごあうが素性あをを
ぬふは糸八もろくきくぬねども
さぬトハ教年来の也馴染あてゆらう安く
まのじが彼由娘子のは夫のほより来られて
叔父さぬ叔母さぬトいりくを思ればあ女小



貰うれらるあもあそらさけのりれが
えの由を女出のはは夫親不別是られ
是非あくしを且ーとひ風評ゆあはこが
こまが実あるべトいひたれが能千布きん
由を女出トあれば素性ゆ結しからぬ明白
何こをう居さん恥じあから彼娘不執人あ
おもりの海をき教人あれば獨りあつるゆもは
出来まき素性す人結しからゆの率女を

貫ぬひぬくぬ押おのおあありりままははささりりななててのの姿すがた
あれあれどもども外あやよりよりちち明あやてて吐はなすすののももああれれがが何なに
乗のりままささぬぬ世よ活かををししててももささららぬぬ親おや人ひとののか
昔むかしのの美み平へいよりより執とらぬぬててののららぬぬ一ひとととああひ
内うちああれれがが色いろ外あやああらられれてて余あま多たああくくいいわわああひ
朝あさ八やちももよよんんああららききるるトト押おののくくババ何なにがが保たも平へい日ひ
作つくりり思おもひひももたたりりああららるる由よしほほままささぬぬののららぬぬ又また
ああぬぬ女めささぬぬとともも旧ふる来きのの而しか別わか保たもああれれががささららぬぬ
四

ののりりてて外あやああららるる存ぞんトトああすすれれがが打うちちををええ合あははせせてて
中ちゆう女めささぬぬトトああららるる一ひとのの強つよ弱よわああららぬぬ一ひとととああひ
中ちゆう女め美み平へいののららぬぬトトああららるる執とらぬぬててののららぬぬ又また我われもも
押おののくくババ何なにがが保たも平へい日ひををええ合あははせせててののららぬぬ又また我われもも
多おほくくがが猪いの十じゅう希し大だい小せう毒どくびび美み平へいののららぬぬ又また我われもも
浴あびつつてて親おや人ひとのの持も短たんををええ合あははせせててののららぬぬ又また我われもも
くくままいいににははトト嘆なげききももたたれれがが美み平へいののららぬぬ又また我われもも
のの花はなのの開ひらくくとと登のぼりり小せう親おや人ひとのの身みををええ合あははせせててののららぬぬ又また我われもも

考ふも^ふい^いむ^む最^{さい}實^{じつ}所^{しよ}を^をき^きぶ^ぶ小^こ男^{おとこ}入^い打^{うち}
くらあれ^{くら}バ^バさ^さろ^ろそ^そく^くゆ^ゆん^んと^とあ^ある^る附^{つき}白^{しろ}公^{こう}持^{もち}乃^の
持^{もち}嫌^{きら}を^を何^{なに}い^いら^らの^の中^{なか}ま^まを^を揚^あげ^げろ^ろと^とい^いふ^ふ
素^す性^{せい}も^も結^{むす}一^{いつ}から^{から}ね^ね娘^{むすめ}市^{いち}の^のよ^よ一^{いつ}着^き且^{かつ}那^なの^の
目^め不^ふ付^つき^き一^{いつ}こ^こを^を喜^{よろこ}ひ^ひあ^あれ^れ先^ま方^{かた}一^{いつ}中^{なか}由^{よし}と^と相^あ相^あ
泣^なく^くあ^あら^らぬ^ぬ私^{わが}一^{いつ}不^ふ快^{かい}の^のも^もい^いら^らぬ^ぬ大^{おほ}悦^{よろこ}不^ふ
存^{ぞん}一^{いつ}身^みり^りま^まの^の由^{よし}業^{わざ}仕^しの^のお^お守^{まも}り^りの^のら^らぬ^ぬ一^{いつ}身^みり^りも^も
ま^まく^く由^{よし}縁^{ゆかり}組^{ぐみ}あ^あら^らぬ^ぬ一^{いつ}身^みり^りの^のな^なら^らぬ^ぬ也^{なり}

四十四

終^{しゆう}ぐ^ぐト^ト会^{かい}語^ごを^をそ^そと^と中^{なか}に^にあ^あら^らぬ^ぬ白^{しろ}公^{こう}持^{もち}も^も
能^{でき}千^{せん}希^きが^が実^{じつ}所^{しよ}あ^ある^るを^を日^ひ々^々感^{かん}して^{して}似^{にあ}合^あふ^ふ
考^{かん}も^もあ^あら^らぬ^ぬト^トと^とい^いふ^ふ人^{ひと}然^{しか}れ^れど^ども^も生^{なま}誕^{だん}配^{はい}偶^ぐ
女^にを^をう^うの^のり^りゆ^ゆ入^い楽^{らく}が^がら^ら不^ふ付^つひ^ひ一^{いつ}女^にを^をと^とと^と
地^ちの^のく^くて^て是^{こゝ}ま^まで^で打^{うち}ら^らぬ^ぬ一^{いつ}身^みり^りあ^あれ^れが^が夫^{つま}と^とあ^あら^らぬ^ぬ
の^のり^りゆ^ゆあ^あら^らぬ^ぬ一^{いつ}身^みり^りあ^あら^らぬ^ぬ一^{いつ}身^みり^りあ^あら^らぬ^ぬ一^{いつ}身^みり^りあ^あら^らぬ^ぬ
そ^そく^く先^ま方^{かた}一^{いつ}身^みり^りあ^あら^らぬ^ぬ一^{いつ}身^みり^りあ^あら^らぬ^ぬ一^{いつ}身^みり^りあ^あら^らぬ^ぬ
平^{ひら}に^に地^ちの^の壺^{つぼ}と^と持^{もち}て^てと^とい^いふ^ふ一^{いつ}身^みり^りあ^あら^らぬ^ぬ一^{いつ}身^みり^りあ^あら^らぬ^ぬ

徳もづつがびさるますアノ貸本金の新
八年来の別業をてゑつてん安く出入り
致せるは彼をかゑらあらがさうそく由相續
調のべーさひくれバク、まをそく呼おきれと
年考のあひあてん世活〜くひ付えゆへ
いそぎ人を走らせて新八を招きこれバ仗の
者と連〜とて連さぬ来ん小湯、姑が居るへ
と及、男〜と通きふし茶、烟、糸、盆、ヨ、め、と

年〜とて世不付テヤ香や清公翁ゆり信
今日突さぬを能く振〜入折入て
中〜あり伊〜ひて下さうやトいふ新
ハも依い〜形の〜かひの嫌ちの
るのあん〜と母のひ〜れバ〜ね、あてヨハ改り
たる由るゆゑを救年か出入を致〜し、不か
是ト由思ふもあつた、私〜し、身不付ひ
たる由用あらが、何〜ありとも、世〜はら〜

さるべし者といふまじく
 中まじくト挨拶するふ
 白羽折飲びまづめりく
 子盛は笑ひ重けらる
 されふるるかたはけは
 返りて子細を由吐く
 ウスなト獲すりあて
 まづく
 西へを寝さるひばる
 すがこららず将錦千
 希美
 由らの通し如人とい
 う親の口から中めい
 ら
 あれどもあま向中の
 精をわしんまも世
 明はあまより身代を
 信り我あはれ

湯病いといふ人の飲
 熱いまもあま
 つき錦千希美何乗
 似合しき縁もが
 あと
 香ふ熱く尋ねれども
 兎角押のりき
 去
 もなく又は生涯配
 偶るあれバ錦千
 希美が
 あつひ女子をこそ
 ト尋ねるらあ
 の偶
 樂は同あもの山に
 ころト押の娘ハ
 あるふりある
 日暮る一日を
 信らぬの子あ
 れバ娘ふせん
 と
 もん若くはのひ
 その信ふ所捨
 棄カス

新あら中な茶ち瓶びんののやや我われ未まどどまま町まち人ひと連づがが子こ細こ
ららしし兒こ節ふし同どう為なるるままトト吹ふややおおじじくく旦たんひひののふ
ららめめ今いまここくく々々るるののままああるるおおんんののままああるるおおんん
年とし相あ果はくく我われおおがが妻つまハハとと汗あせもも巾きん存ぞんトトの
適あたつつ懐なつかままのの娘むすめああるるああらられれどどもも我われ子こああるる
ららもも錦にしき千せん帯おビるるののハハゆゆーー子こ細こももああれれババ何なに年とし
系けい性せいよよららししきき女むすめをを尋たずねねははくく縁えんせせくくらら我われ
ききししヤヤススああるるああらられれしし小こ娘にやうめののハハああらられれしし也や

ああててららしし月つき池がのの邊はた施せ所所ああるる某あ某あ某あ某あ女むすめのの
のの正ただ娘むすめ子こははるる中なかああららままととままああらられれるるのの正ただ者もの
ああらられれるるああらられれししががそのその娘むすめ也や錦にしき千せん帯おビするする布ふをを
我われのの心こころをを慰なぐさむむのの妻つま女むすめををううららふふ業わざ者ものハハななととしてしてヤヤ
某あ平へい一いち吐つせせししはは某あ平へいもも又また何なにももああららずずしてして也や
おおぢぢやや彼あ娘むすめ也やハハああららままのの姪ひだり也やああららままるる
巾きん存ぞんののよよううああ親おや不ふ記き小こ引ひ道みち高たか山さんトト
ああららままのの厄やく介けいととああららずず居いるるににはは縁えん付つき

せうきゝのづら 身が固付きしことをあひ行
又元とる世ののぶりまで立振まひも待り
育ちし人ともいふべ我おれおのゝ世に
昔のゆゑぞ右の世の世を先さぬりし入られ
いふあつて務が妻おちさるゝかゝ軍に
お媒ちして下されし始終を待りて
まば新八へまのゆゑ安きるひよさる
あづのあぬさぬも下思案あつた方あねを

いふ中さきんり斗り難くれどもまづく
通つもふて通つもやてんがら
娘由も病系のるまれば早時小挨拶
あつたもたつ会ふ念を入していひ多あぞイヤ
とまひりサ一のまゝいふべ娘由の病由は
て安あづらゝ行でもあゝ共あ親のりあ
おのひはげけて歎くゝ人まをまを
るまれば頼末がまづあふの由あてさるゝ

見^まえ^まの^の 全^{ぜん}枝^えあ^ある^るべ^べい^いト^ト 存^{ぞん}ず^ずる^るあ^あり^り 後^{こう}を^をの^のる^るの^のり^り
快^{かい}手^てあ^ある^るの^のり^りま^まぐ^ぐく^く少^{せう}し^しの^のり^り
仍^なて^て中^{ちゆう}中^{ちゆう}と^と見^みて^て下^げされ^れと^と老^{らう}人^{じん}の^の性^{せい}は^はあ^あ
後^{こう}に^に持^{もち}た^た今^{いま}日^{にち}只^{ただ}今^{いま}と^とあ^あら^らず^ず鉄^{てつ}炮^{ぱう}所^{しよ}に^に
ま^まの^のべ^べい^いト^トも^もや^やま^まな^なふ^ふヤ^ヤレ^レ情^{じやう}け^けれ^れよ^よ
白^{はく}翁^{うゆう}こ^この^のこ^こを^をお^おや^やし^し目^め子^こを^をお^おと^とえ^え
終^{あひ}り^りヨ^ヨレ^レく^くま^まぐ^ぐ中^{ちゆう}陵^{りやう}が^がひ^ひら^らく^くト^トあ^あれ^れば^ばの^のど^ど
を^をま^まあ^あす^すぬ^ぬへ^へ下^げの^の日^{にち}あ^あり^りト^ト陵^{りやう}が^がふ^ふく^く日^{にち}



ら^られ^れも^もお^お極^{ごく}の^の一^{いち}さ^さあ^ある^るが^が由^{ゆう}を^をま^まあ^ある^るを^を
情^{じやう}け^けれ^れの^のち^ちを^をス^スト^ト
由^{ゆう}を^をま^まあ^ある^る上^{じやう}と^とさ^さら^らく^く小^{せう}白^{はく}翁^{うゆう}を^をま^まあ^あ
お^おて^て月^{げつ}池^ちに^にこ^この^のま^まぎ^ぎは^はら^らる^る白^{はく}翁^{うゆう}の^の筆^{ひつ}
平^{へい}も^もん^ん欣^{しん}然^{ぜん}新^{しん}ハ^ハぐ^ぐの^のり^りを^を今^{いま}や^や通^{とう}と^と
終^{あひ}り^りの^のて^て秋^{あき}の^の日^{にち}の^の短^{たん}ま^まも^も本^{ほん}を^をか^かる^る斗^{とう}り^り
あ^あり^りされ^れば^ば新^{しん}ハ^ハの^のま^まぎ^ぎ鉄^{てつ}炮^{ぱう}所^{しよ}に^に
く^くる^る折^{せつ}節^{せつ}を^をあ^あら^らぬ^ぬま^まる^るあ^あり^りが^が近^{きん}と^とく^く

行ゆきくするの途ち今いま妻つま不ふ戻もどるべしトと地ちよより
然しからば由よし法ほフスべしとて誓ちかすのる由よし中ちゆう不
おとろが積つふふ一ひとと一ひと國くにををつて女をををりある
お糸いと巾きん向むひ中ちゆうろろ快さつつきもあまま由よし吐はし
あざら共とも方かたのおとろさぬハ何なに方かたををお行ゆけ
あざられまのるおがしめあもゆヤトと同どうけけを
お糸いとののつる中ちゆうろろハぬど家いえのの業わざ終しまわもぬ
ますれ相あ應へふおもあざらばお後ごも致いたす

又またお糸いと無なかれども何なにををヤスも浪なみ人ののおの
ろゆるものふまうせぬ後ごもあれれば染せんがらん
次つぎ申まをし致いたすすと重おもまのるトとの接あおおひひく
そのおがしめあざらぬハ存ぞんトとる所ところ人ひと
ののあてあて娘むすめををややぐり先さ方かたハハ代しろも匠たま
標め致いたすハハ終しまわばばななぬぬちちふふハハ容よう貌ぼうああら
るる様さまわわららああららささぬぬ由よし容よう貌ぼうああら
先さ方かたのの重おもと通とううままふふ入いれれててああります

あんと由相渡あきるゝ勢がしめし入とさうりま
せんりトいふ小夫入近江あり難きあがり先し
かふ不熱させられてお世話もあるされてトさう
腹あきるゝは地ゆひのしゝあり追付テ又ト
妻女も海へくればはと又由吐一のらん由
お流もあるゝゆれといふらん小妻女も帰
宅せらるゝ今般らん明て京をさあるカ、白
鉛金まで好ふ世うひとたうゝ鉛十希が批

んのかゆむきより白翁が愛もゝまゝ
洋うふりの強じくれば妻女へ始終をゆめて
中々るゝ教あるぬおろそかさ程までおもひ
まゝる鉛十希どめらん又白翁どめらん
あまゝとあるらん其れ小地ゆても油足小存する
あり其件ととも回来の由別染とを由世話
りさる腹子と方かしてけあくけらん入あが
し小侍しゝらんともゆゝをヤスの浪人のあめ

中より病ひびのりありあればかゞゞ一あり
 由お痰せきも痰たんが一は痰たんより一先極さかく
 びりてもられトバヤヤそのまのまの由
 安やすうれおとろさぬを熱あつ重おものりありあれば
 ありま交まじるのりありあればはし又由
 業わざのりも向むかひあはれ存ぞんのりありあれば
 指さし續つづき細こまへるが由全ぜん枝えだのりありあはれ



のりありトらよ人ひと重おも今いまのりあり
 を乳ちゆ子こおもあはれとあはれを親おやの款かみ枝
 対たい人ひと無なるあはれ縁えん組ぐみのりありあはれ
 ありト内うち白しろ地ぢふらんのりありあはれ
 大事だいじのりトらよ強あつく高たか感かんあり人
 何なにを色いろカさん張はる子こ細こまあり外あひも
 大おほ重おものりありあはれ縁えん組ぐみのりありあはれ
 後あとふあはれびぐ一ひとも先まへ方かたありあはれ

まねかすふ然るべく断りらめておられじト
事のついでに女くらしの述べが新八もア
知れすトおのゝ宿初ハおまをなほあき等の
まゝあつてお後あつたがときおまきゆへにその
支極めきふんあられが昔うへにト臣細お吐
してお合は今又外ハ大層ある身あられバ
ととも縁組のころのお後おおのび難くとの
挨拶ハ何ともおおぬらいつんまトあし

四十一

おのち武張る事志の要女ぐるの
らかつおま紫替りせんもじろをさくその
修不誤してまづくそのおのむきを先方へ
断りカス合といと及びて鉄炮所を立
出又京途にある白旗を不あられ白旗を
よりおまをさへせさお不立いでお居るが新
八が改女をさるありやし戻られうおまをさ
おのちよりまづくより来られよト戻居る

吾^{いま}乃^も人^も儀^{あり}引^きて^ま供^{とも}老^ら方^はの^ま多^くも^のい^はら^るご^とわ
中^{ちゆう}ま^るあ^んと^能じ^りう^トり^らく^程新^{しん}八^はを^を
ま^まの^ごく^サ小^こ志^し不^ふく^じして^て供^{とも}く^チに^けも
ま^まは^は合^あせ^ふ甲^が斐^ひ文^{ぶん}あ^られ^る者^{もの}と^あが^り一^いち^に
其^まれ^も実^{まこと}木^{ゆき}面^{めん}圓^{えん}あ^られ^ば縁^{えん}の^はじ^り中^{ちゆう}に^は相^あ
談^{だん}へ^り子^こ一^いち^にて^は実^{まこと}を^をき^く一^いち^には^はれ^ば
白^{はく}翁^{うう}も^も今^{いま}ま^まを^を納^なめ^る一^いち^には^はれ^ば其^まの^つ強^{つよ}も^も切^きた^の
一^いち^にの^ち力^{ちから}も^もあ^ら果^はて^る一^いち^にの^こ子^こ細^こく^あれ^ばと

男^{おとこ}正^{ただ}

同^{どう}く^くの^{しん}八^はも^も色^{いろ}濃^のく^くん^ん中^{ちゆう}に^はも^もあ^られ^ば先^ま
妻^{さい}女^{にょ}一^いち^に合^あの^し始^{はじめ}末^まを^を吐^はき^出す^る一^いち^に初^{はつ}め^めに^はあ^らる^の
ふ^ふ洞^{どう}く^く又^{また}高^{たか}壽^{じゆう}の^は清^{きよ}く^くと^とあ^らり^らあ^られ^ばそ^それ^れも
お^お且^{かつ}も^も皆^{みな}也^{なり}善^{ぜん}意^いの^は善^{ぜん}く^く一^いち^には^は相^あ談^{だん}ま^ま
洞^{どう}く^くあ^られ^ば全^{ぜん}杖^{じゆう}の^はく^く一^いち^には^は税^{ぜい}去^{きょ}の^はに^には^は相^あ談^{だん}
び^びハ^ハ後^ごく^くあ^らる^のお^おが^が一^いち^には^は述^{じゆつ}一^いち^にか
その^{その}時^{とき}必^{かならず}五^ご十^{じゅう}由^{ゆう}惑^{ごつ}の^は中^{ちゆう}に^はあ^られ^ばま^まの^ごと^と
あ^あら^ら子^こ細^こあ^らり^て外^あに^は大^{だい}層^{じゆう}あ^らる^のあ^られ^ばを

縁組のさへお疾ふおまのび難しとのいひ
おんさへんや初めよりその縁意をやりさる
るに其の御書のおやしふ如きどの病中だの
はるまゝこゝろを断りそのさへもいへも果
のさへトの世をさへく大不調結を仕まひの
挨拶のさへもいひるごとくおれども常刀も
まゝさへかかろかりおま結おれどもお果す
その縁ありて立ぬるぬお果するお断絶縁

縁のさへお叶りぬト及もあつてそれを
又外不調りのいひやうもあるまゝいふありても
後系結ぬるいひえト果もいふく存ト
まゝト縁をさへくいひくれは白公持ゆりてある
程めりともある後立なれども左様お一握ニ由
中されまゝいふある子細らぬ知らぬども外お
大望あるまのさへトあれがそれを明白に
られはつておれども外くのまゝいふいひ給

らして形りもいふ事あるを夫も是も善し
かばト善その善なる不詮方なく斯れ換
投も終されしある一初めより夫ト云ふも
至極を理ありそれいともあれ折角博が
押のみぬと我も然るべしと悦びし甲斐をも
なくを以て終念ふも万あるものくさる者ある
外不失望ある身とあればなく善く不望
ともいれまじたる又金銀不換ても至極不

引るに後もあるべけれどそれあるはそれのふ
も深ず結句ふ縁の基あれば銀千希つもの
よしいひ受せと押のみ切まじし是も不憚あり又
外小軍し縁もあるが世結してのら道さしく
西骨柄のふもあきて終念至極と殆く
力を善くしていひたれば新八もその善のどごと
面目もあふさしく喉乞して立ぬくやう白
公箱ハそれより善平を呼て新八がひし押

むきとくはしく落しはるゝとてもお度の出来
かゝる理もは鉛十希も形とりのゆめせく
おのひ切かゝりてくまよじ我も玉極あつる
なごしおのひて云へしお大望ある身とてお
来は是非もは廣き江戸のりあるれを
標致捨れしものも教多ある一皆縁づきの
るあるが又然又き女子を又立て我小吉ト
第十希へくまぐもりのくれヨ甚方甚もふお

おて笑中一ともくお骨折ておくはれと
りお小七美平も捨念あるものおおととも又
何とも主人きまうあるれがその腹着とれ入も
おゆーやート子持無沙汰不存とてまよく誰
十希小いさのを清くもなはは縁組ハ烟ハ
まゝ免修おのひ切り又又外お同小とまじ
女もあふお私しまでさまう修せられませ又く
りかゝるものお執お仕らんト修めまうしとくひ

くれおの緒十希の只ト物不押のいひやう
かおのうお後洞の難きおをゆめてそらよ
んおく達く挨拶もせられが美平八狗
痛りアさうとてふ甲斐あし〜ゆぢやア
くらおを女子不斯まで押のい悩まのめり余
馬兼く〜き次おあうチト人の押のくもさ
久屋の世界のりあれバアノ娘より十辰も
百せんも立上り容鏡の然女子か教まも
四

なすうきも小尋ねては物トませトろく
んを創りても免小角押のいの種不影れて
あゝの洞のきもまぎげ不るくくれバア
く〜ト押のいひていおおのあおも然るべ
らホク入の廿四日巻客とぬの由縁日あれバ
チト由き時〜ふりひて林明の扇摺か
落〜あ〜でもおあまされトんを付く〜い
くれバ緒十希のきも勇かま〜ども生質の

車^{くるま}が^{あつ}ふ^{より}算^{さん}平^{へい}が^け休^{やす}め^らふ^まる^せ昏^ひ目^まと
 ち^うち^のあ^らは^しと^て巻^ま衣^い人^{にん}素^す湯^{とう}せ^んと^て白^{しろ}翁^{おう}人^{にん}
 も^よと^りて^いで^ゆら^らる^る算^{さん}平^{へい}の^の後^ご次^じ女^{にょ}を^とえ
 送^{おく}つて^物づ^かま^ア押^おし^とぢ^や今^{いま}を^めめ^らう^の
 血^ちま^のの^の身^みあ^ての^の保^たき^親仁^にさ^のの^のま^まに
 差^さま^ひて^結下^げ一^は度^どの^の無^な通^{つう}ひ^のも^の志^しの^の矢^やば
 下^{した}物^{もの}小^こ押^おの^のひ^ひま^まう^うか^とう^どの^のお^お渡^{わた}り^との
 子^こ手^て笑^{わら}ひ^てア^ア中^{ちゆう}力^{りき}を^と落^おつ^との^の思^{おも}ひ

憂^{うれ}ひ^の及^{およ}び^る理^りと^や由^{よし}と^さぬ^でな^らう^ます^トと
 ろ^ろ不^ふ涙^{なみだ}ぐ^もて^自白^{しろ}翁^{おう}あ^の泣^なき^十布^ふが^押の^ひあり
 妻^{つま}の^の中^{ちゆう}ま^まと^倍つ^てい^はふ^入ふ^少も^を中^{ちゆう}外^{がい}
 外^{がい}と^中ま^まと^西縁^{えん}組^{ぐみ}の^のり^りを^行要^{よう}あり^ト
 入^いり^入笑^{わら}ひ^て奪^{うば}ぬ^多れ^も供^{たご}押^おの^ひ手^て縁^{えん}も
 あ^らう^らち^の多^たる^多を^是惟^{ぜい}も^は新^{あらた}て^結平^{へい}糸^{いと}の
 兎^う角^{かく}あ^らう^らがる^のは^あれ^うて^中ま^まと^らう^らく
 と^押の^の凝^こり^多れ^ばは^はら^何と^中の^の怒^いら^うく

及て其のまゝく食事もなす只下
の中よりいりて其く依くして居る
まといれど患病と知るもなぬおなり
あつて白翁が案ト弄平がふまひを
引く醫者をもよほさるゝト其まこれ
そのまより其のひあるがれば其まの
終もあつてあく日不坊癒る面影の
あつて思ひがごとくそれの非ハ終がけは是の

仙一代系とあらゆ祈禱不加持ヨ漢
と心を苦しむをさせども文く全快す
き所もあつたり実や陰陽者その人を
あつて世の味あつたりがごとく法をほし
あつて奇蹟ある白翁が案ト弄平がふまひを
さらその切能もあつて其家内一統小を
痛むるをうりありされれば其十希がむ子の
くらいつりり刺りる人推量られて熱ん

他者たうじやの是これよりか鉛ねん十じゅう帝ていがその人又またおとら
この人かた宛あて梅うめ本ほん香かう門もんがその人いふや
あらんそふあふ二編にへん同どう後ごへの巻まきよよく
解き分ぶんを聴きべし

江戸花誌卷四行

むじがら

まのひやまの

へんばく

